

## 第2回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会 議事録

### 1 開催日時

令和3年10月15日（金）10時00分から

### 2 開催場所

小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

### 3 出席委員（名簿順）

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 大塚 俊幸 | 中部大学                |
| 鶴田 佳子 | 岐阜工業高等専門学校          |
| 生田 京子 | 名城大学                |
| 名和 千博 | 小牧商工会議所             |
| 副島 孝  | 公共交通利用促進協議会         |
| 高橋美喜雄 | 小牧市観光協会             |
| 眞水 明子 | ラピオ通り商店街振興組合        |
| 水野 嗣則 | 小牧小学校区地域協議会         |
| 加藤 紀文 | 小牧にぎわい隊             |
| 秦野 利基 | こまき市民活動ネットワーク       |
| 犬飼 武彦 | 小牧市歴史ガイドボランティアたぶの木会 |
| 日比野 俐 | 都市景観形成重点地域の景観を守る会   |
| 廣瀬 昌美 | 公募委員                |
| 永渕 七恵 | 公募委員                |
| 伴野 純二 | 公募委員                |

### 4 事務局

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 鵜飼 達市 | 都市政策部長            |
| 笹尾 拓也 | 都市政策部次長           |
| 丹羽 智則 | 都市政策部都市計画課長       |
| 馬庭 貴彦 | 都市政策部都市計画課都市計画係長  |
| 白木 裕之 | 都市政策部都市計画課都市計画係主任 |
| 立山由希子 | 都市政策部都市計画課都市計画係主事 |

### 5 会議内容

#### 1 議題

- （1）中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップの報告について
- （2）第1回策定委員会の振り返りについて
- （3）中心市街地グランドデザイン（案）について
- （4）その他

## ■議事録

### 【事務局】

時間となりましたので、始めさせていただきたいと思います。まだ1名来られておりませんけれども、時間となりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中御出席頂きましてありがとうございます。

ただいまより第2回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会を開催させていただきます。

本日進行を務めさせていただきます、都市政策部次長の笹尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は、次第に記載したとおり、資料の1から資料の4まで、それから参考資料ということで添付しております。いずれも右上に資料番号を入れさせていただきますので、御確認を頂きまして、不足等ございましたらお申し出頂きますよう、よろしくお願いいたします。

ないようですので、始めさせていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、大塚委員長より御挨拶を頂きたいと思います。

### 【大塚委員長】

皆さん、おはようございます。

今日は第2回目の委員会ということで、朝早くから御参集頂きましてありがとうございます。

皆さんのお手元に既に届いているかと思いますが、グランドデザインの素案という形で、議論のためのたたき台が提示されています。これに対して皆さんから意見を頂いて最終的な案を作り上げていくということで、今日2回目ではありますけれども、皆さんから意見を頂ける重要な回でありますので、どうか忌憚のない御意見をお出しただいて今日の議論を深めていきたいと思っておりますので、御協力よろしくお願いいたします。

### 【事務局】

ありがとうございました。

それでは、会議の進行につきましては、小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会設置要綱第4条第2項に基づき、委員長が会務を総理することとなっておりますので、大塚委員長にお願いしたいと思います。

それでは、委員長、よろしくお願いいたします。

### 【大塚委員長】

次第に従いまして進行させていただきたいと思います。

まず、議題（1）中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップの報告についてを議題とさせていただきます。

事務局から説明をお願いいたします。

### 【事務局】

中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップについて報告させていただきます。

資料1をお願いいたします。

第1回目の策定委員会でも報告させていただきましたが、様々な立場の方から中心市街地のまちづくりについての考え方や意見を集めるために、ワークショップを開催いたしました。

ワークショップは、7月から9月まで全3回の構成で参加を募集したところ、中心市街地にお住まいの方をはじめ、関係団体や学生など、市外の方も含め24名の方に御参加を頂いたところであります。途中、緊急事態宣言の発令もありまして、9月に開催予定の3回目のワークショップにつきましては、先日の10月3日に延期して開催したところであります。

本日お示しする中心市街地グランドデザインの素案につきましては、第2回目までのワークショップの結果を反映して作成しております。3回目までのワークショップのまとめにつきましては別途、委員の皆様には御報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

ワークショップでは、中心市街地の目指す姿である、訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちというテーマごとの3つのグループに分けまして、第1回目のワークショップでは中心市街地の魅力や問題点の洗い出し、第2回目では魅力や問題点を踏まえたまちづくりのアイデアを出していただきました。第3回目では、出していただいたアイデアから重要な施策を選んでいただく作業を行っていただいております。

グループワークでは、参加者の活発な意見や提案を頂き、熱心な御議論を頂きました。そのワークショップでの意見や提案をまとめさせていただいたものが、表の一番右側の「取組内容」の欄に記載してあるものになります。また、ワークショップで出た意見をもとに、施策についても前回の委員会から見直しをかけておりますが、詳細につきましてはグランドデザインの素案の中で説明させていただきます。

ワークショップで出た意見を抜粋して御紹介させていただきますと、訪れたいまちでは、にぎわい広場を活用したイベント開催、歩道での飲食や休憩ができるようなスペースの確保、小牧駅から小牧山までつながりのある景観づくり、サインや案内誘導設置等の歩きたくなる空間整備、歴史に関する情報発信の強化などであります。

資料の裏面にいきまして、住みたいまちでは、住宅開発業者への支援策の検討、子育て支援や高齢者の生きがいづくり支援、公園の整備や改修などであります。

活力があるまちでは、空き店舗などの対策として、貸主と借主のマッチングの仕組みづくりやリノベーションの補助制度、また、イベント開催やコミュニティビジネスの起業等にチャレンジする人材の育成、特徴ある店舗や人気店の誘致、バスネットワークの充実やこまくるの本数、ルートの再検討、自転車シェアリングサービスの導入などの御意見を頂きました。

以上、簡単ではございますが、中心市街地まちづくりワークショップの報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございます。

これまで3回ワークショップが開かれたわけですが、その中の最新のものについてはまだ、直近に行われているので、それ以前の2回のワークショップの内容をまとめていただいて、報告をしていただいたということです。

私も第2回の際に見学させていただいて、かなりたくさん意見が出ていたかなという感想を持っています。このワークショップの内容を踏まえて後ほどの素案が作られているということで、

中身については後ほどまた御議論頂きたいと思いますが、このワークショップについて何か皆さんのほうで御質問等ございましたらお願いできればと思います。あるいは、ワークショップに御参加を頂いていた犬飼委員と永渕委員、参加した立場から何か御発言頂けることがあれば、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【犬飼委員】

実はですね、参加する前は、どうなのかなっていう気持ちで行ったんですけども、実際、僕らぐらいの年代から若い人まで参加されていて、ラベルも張り切れないぐらい出ていました。思ったよりも、みんな相当頭使ったよねという感じのワークショップだったと思います。だから、行ってよかったというのが感想です。

意見もいろいろあって、僕らと若い人とやっぱり違うよねという感じでした。ここにも出ていると思うのですが、そういうのも活発だったので成功だったんじゃないかなと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

永渕委員、何かございますか。

【永渕委員】

3回のうちの1回しか参加できなかったのですが、すごく若い学生さんの意見を聞いていますと、ここにもありましたけど、動画を撮って小牧の魅力を発信したらいいんじゃないかとか、世代によっていろんな意見があって、若い人の行動力というか発信力をもっと見習って、新しいことができたらいいなと思いました。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ほかの方々に何かありますか。

お願いします。

【生田委員】

2つ御質問です。

ワークショップで出された意見、活力があるまちの中の、空き店舗の需給バランスがマッチしないということがどういう意味であったのかを教えてくださいたいです。

もう1つは、住みたいまちの中のワークショップで出された問題点、防災の拠点が見えないという御意見があるかと思いますが、現状どのように見せているのかということと、取組内容にその点について特に反映するような展開方向が示されていないように思うので、実際どうなのかというあたりを教えてくださいたいと思います。

【大塚委員長】

2点御質問がありましたけれども、事務局いかがでしょうか。

【事務局】

最初の需給バランスのご質問ですが、今現在も市では空き店舗の家賃補助といった施策を行っているのですが、空き店舗数の割に、入っていただける店がなかなかない状況であります。

2点目の質問に関しまして、少し聞き逃した部分があるものですから、再度よろしいでしょうか。

【生田委員】

住みたいまちで、ワークショップで出された問題点として、防災の拠点が見えないということが書かれています。恐らく防災時にどういう避難行動をとったらいいのかとかいうことが見えづらいという御意見なのだろうなと思って見ましたが、実際のところは対処されているのでしょうか。要は、どのように市として防災拠点が見えるような形で対処されているのかということと、それに関しては特段取組内容に展開されていないように思うので、展開しなくてもよいと判断された理由を教えてくださいなと思います。

【大塚委員長】

いかがでしょうか。防災拠点について、具体的な指摘があったにもかかわらず、計画の中に反映されていないのはどういう考えかというところかと思いますが。

【事務局】

中心市街地ということで、住宅や商業とかの部分で大きな避難地みたいなものが見えてこないことから、こういった意見が出てきたと思います。

ただ、一応小牧市におきましても防災計画などを立てておりますので、そういったことに関しましてはホームページなども通じて周知しているところであります。

以上です。

【生田委員】

特段取組まなくていいということですね。

ありがとうございます。

【事務局】

先程の空き店舗の関係で少し補足させていただきます。様々な業種がある中で、小売業などはなかなか借りたい方がいない状況にある。一方、飲食業は、割と引き合いってというのはあると伺っています。その場合、家主さんのほうが飲食業には貸したくないという、業種によってバランスが取れていない現状がございまして、そういったいろんな意味でこの需給バランスが取れていないという表現になっているかと思いますが、よろしくお願いいたします。

以上であります。

【大塚委員長】

先ほど、防災拠点のところについては、住みたいまちっていうのはやっぱり安心して暮らせるということで、安心して暮らせるためにはそうした防災上の安全っていうのも確保されていないと安心して住めないのではないかと。だからやはり中心市街地のグランドデザインの計画の中にもそう

いう話は出てきていいのではないかというのが生田委員の御意見かなと思いますが、そのあたりはまた後ほどの素案の中で御発言頂ければと思います。

ほかに、ワークショップに関して何か御質問等ございますか。

【鶴田委員】

このまとめの内容を見ますと、非常におもしろいアイデアがいっぱいあって、先ほどワークショップに参加された方々の御発言は非常にいい雰囲気伝わってくるような、すばらしいというか、いいワークショップができたんだなっていうふうに感じているところです。

その中で、1枚目の裏面、住みたいまちのところの2-1とか2-3のところの一番最後にある、高齢者が生き生きと暮らし続けられるまちづくりというのは、ほかの施策はかなり具体的で内容がイメージできるのですが、ここだけがちょっと何か具体的じゃなく、同じ言葉が2-1と2-3にあるんですけど、実際のワークショップの中ではもう少し何か具体的な内容があったものをこういうふうに取りまとめられたのか、あるいはこれについてはあまり具体的なイメージが参加者の中になかったのか。

というのは、取組内容がかなり具体的な内容で、こういうものをどれだけこのプランの中に書き込んでいくかっていうのが非常にネックになってくるのかなっていうふうに思うんですけども、そうなったときにここだけが具体的ではないので、それはどういう扱いなのかちょっと気になりましたので、教えていただきたいです。

【大塚委員長】

高齢者が生き生きと暮らし続けられるまちづくりっていうのがあちこちに出てきて、漠然としていて、その中身って一体どういう意見だったのということで、もし今把握されていることがあれば、御紹介頂ければと思います。

【国際開発㈱】

私が直接ワークショップのファシリテーターをさせていただきましたので、状況を御報告します。

今御質問のありました、高齢者が生き生きと暮らし続けられるまちづくり、これはそのままの文章で、そのまま出てきたものでございますので、特段注釈したわけではございません。

ただ、やはりいろんな方がいらっしゃいますので、こういう御発言、御指摘された方もいらっしゃれば、次の3ページを見ていただきますと、3-2の多様な人が主役となりにぎわいを生み出す環境の創出の中に、⑧で高齢者が集える交流スペースの配置とか、⑩の多世代カフェやコミュニティカフェなど集える場づくりの推進ということ、それから3-3の②に高齢者に優しい交通網の整備や仕組みの創出ということで、このあたりがより具体的な高齢者の方が生き生きと暮らし続けられるということの展開かなと理解しております。

以上でございます。

【鶴田委員】

ありがとうございました。

【大塚委員長】

ほかにいかがでしょうか。

【日比野委員】

ワークショップの中のことを教えてほしいのですが。

3 ページの 3-3 の③ですが、木陰のあるランニングコースやサイクリングコースはどの部分をどれぐらいの範囲で想定されているのか。そういう話は出ましたでしょうか。

【大塚委員長】

犬飼委員の御質問も先に頂いて、併せて御回答頂ければと思いますが、犬飼委員どうでしょうか。

【犬飼委員】

活力があるまちの 3-1 の④に、特徴のある店舗や人気店の誘致ってあるんですけども、実際このとき僕いて、誘致だけでいいのって言った覚えがあります。誘致じゃなくて、まず自分のところのまちから企画を引き出して、最後の手段で誘致じゃないんですかって担当の人に言った覚えがあるんだけど、やっぱりそういうふうにしないと活力が出てこないと思うんですよね。アウトソーシング、僕は現役のときから嫌いだったんだけど。というのは、丸投げしちゃうような感じになっちゃうからというので指摘したことがあるんです。それが 1 つ。

やすらぎみちですよ、やすらぎって何といたら、僕が思うに緑と木陰と水辺、水ですよ。歩いてみても木陰はほとんどないよね、ずっと。木が出てくるのは神明社さんのところぐらいですよ。そういうの全部に入っている課題だと思うんです。自分も訪れたいまちで 3 つぐらい書いたんですけど、ほかのところには入っているんだけど、これは基本だと思うのでやっぱり入れてほしいなと思います。

【大塚委員長】

犬飼委員の御発言は多分、今おっしゃられたような内容を計画の中に盛り込んでいくべきではないかということです、後ほどの素案の中で、ここでこういうふうに盛り込んでいったらいいんじゃないかというようなところでまた御発言頂ければと思います。

日比野委員の最初の御質問、木陰のあるランニングコースやサイクリングコースは具体的にどの辺りか、具体的な場所に関する発言がワークショップの中であったのでしょうか。

【永渕委員】

私が書いたと記憶しております。

特にワークショップの中で細かいことは言わなかったんですが、ランニングがすごく好きな友人がおりまして、小牧山が木陰が多くて涼しくていいということで、結構ランニング好きの中では人気スポットだそうなんです。今はトレイルランとか話題になっていますけれども、舗装した道路ではなく、ちょっと凸凹した土の上を、石があったり、そういうところを走るのが健康にいいんだと、自然の中で走るのがいいんだというのがブームにもなっていますので、小牧山のトレイルランコースとしての整備であるとか。

サイクリングについては、私よく小牧駅前をうろうろしていますけれども、結構自転車で移動されている方が多いので。車も多いので、安全に子供でも自転車ではっとやってきて図書館や未来館

で有意義な時間を過ごせたりできるといいなということで、書かせていただきました。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

サイクリングというよりも、どちらかというと町の中の移動手段として自転車が活用できるような環境を整えるという、そんなイメージですかね。

【日比野委員】

犬飼委員がおっしゃったイメージは分かります。

確かにまちなかはいいかもしれませんね、自転車、サイクリング。だけど、小牧山の周辺あるいは合瀬川の兩岸というか、それをもうちょっと整備していただいて、そしてランニングするようなコースを造るとか、散策するコースを造るとか。合瀬川は南北に流れていますので、そういうものを引き込みながら、水、それから木陰、そういったものをうまく使って計画していただければありがたいなという気持ちです。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

緑については、小牧山はランニングする人の注目の場所だということなのでそういう話が出たんですが、もう一つ、水というところで、やはり水辺が走れるというようなコースも必要ではないかということで、それはまた後ほど、計画の中で盛り込まれているかどうかの確認をさせていただきたいと思います。

いろいろとワークショップの中で意見は出ましたが、それらをこの計画に反映させ、不足する部分は委員の皆さんから御発言頂いてさらに補充して、より内容の濃い計画にしていくために後ほどの議論をしたいと思っております。ワークショップ自体に関する御質問は以上でよろしかったでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、続いての議題（２）の前回の第１回策定委員会の振り返りと（３）のグランドデザイン（案）については関連する内容でありますので、一括して議題としたいと思いますので、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

議題（２）第１回策定委員会の振り返りと（３）中心市街地グランドデザイン（案）について御説明申し上げます。

少しお時間かかりますので、着座にて失礼いたします。

まず、第１回策定委員会の振り返りということで、資料２を御覧頂きたいと思います。

こちらに、前回お示しした中心市街地グランドデザインの改訂案に対しまして各委員の発言内容をまとめておりまして、発言内容ごとに対応方法を記載しております。

頂いた御意見は、具体的な取組についての内容が多く、施策にひもづく取組の中で今後検討していく形とさせていただいております。施策や取組内容の詳細につきましては、後ほど御説明させていただきます。



頂いた意見には、歴史を伝えるサイン戦略、また、小牧山城だけではなく城下町を含めた PR が重要など、歴史・文化に関するもの、また、駅西、駅東公園の整備や旧図書館跡地の利活用方法の検討などハード面の整備に関するものと、にぎわい創出や人に訪れてもらうためにお祭りなどのイベントが必要であるなどソフト事業に関するものなどがありました。そのほか、計画を推進していく上で、次世代に伝えていく、市民を巻き込んだ活動にしていくことが重要であるという御意見や、SDGs に関する御意見など、計画全体に関わる発言もございました。それぞれ計画案には反映しておりますので、御確認頂ければと思います。

また、廣瀬委員よりお寺に関する意見として、お寺の御意見やお話を聞いてというお話がありました。まちづくりに生かせるのではという御意見も頂きましたので、この中心市街地にも玉林寺、西林寺、西源寺、戒蔵院といった4つのお寺がありまして、緊急事態宣言明けにこの4つのお寺にも訪問させていただきお話を伺ってまいりました。

今のお寺のことに关しましては、催し事に関しましては、玉林寺さんが節分には豆まきの催し事ということでやっているということが1つございました。また、全てのお寺に关しまして、一般参加を募っての催し事などは今のところ特に考えてはいないということでしたが、前もって言うていただければ可能な限り協力はするといった前向きな御返事を頂いているところであります。

第1回策定委員会の振り返りについては以上であります。

続きまして、中心市街地グランドデザイン（案）について御説明をさせていただきます。資料3を御覧頂きたいと思ひます。

まず、中心市街地グランドデザインの体系案でございます。こちらは、前回の策定委員会にもお示ししましたが、ワークショップの意見を踏まえて施策を一部修正しております。

一番右側が前回お示したワークショップ前の施策、その左側にワークショップを踏まえて修正した施策を記載しております。

変更した点といたしましては、訪れたいまちでは、施策1-1と施策1-2の表現をそれぞれ、歩道・広場空間の魅力向上、歩いて楽しい歩道ネットワークの構築としております。住みたいまちにおきましては、施策を2つから3つに追加しております。施策2-1のまちなか居住に「(高度利用)」というものを追記いたしまして、施策2-2につきましては、緑とやすらぎのあるまちの創造に表現を変更しております。追加施策の2-3といたしましては、地域協働や子育て支援などの視点から、地域で支え合うまちの創出を追加しております。活力があるまちにおきましても、施策を1つ追加していると同時に、施策3-1をリノベーションまちづくりの推進に表現を変えております。また、施策3-2を、多様な人が主役となりにぎわいを生み出す環境の創出ということで表現を変更しております。追加いたしました施策3-3といたしましては、公共交通の視点から、利便性の高い公共交通ネットワークの充実を追加しております。

また、目指す姿と取組方針の表現につきまして一部修正しておりますので、御確認頂ければと思います。

続きまして、資料4をお願いします。こちらは中心市街地グランドデザインの素案となります。表紙の裏面をお願いいたします。

中心市街地グランドデザインの構成といたしまして、序章にグランドデザインとはということで計画の策定目的や位置づけなどを、第1章では中心市街地の現状と課題、第2章では中心市街地の将来像、第3章では中心市街地の取組、第4章に計画の推進体制等をまとめております。

本日は、このグランドデザインでも重要な部分である第3章と第4章を説明させていただきます。

他の項目につきましても、お気づきの点がございましたら、事務局まで御連絡頂ければと思います。

23 ページをお願いしたいと思います。

こちらは、施策ごとの取組内容と想定される取組を記載しております。この取組内容は、ワークショップの内容を踏まえて作成したものであります。

それでは、施策ごとの取組内容について御説明させていただきます。

訪れたいまちの施策 1－1：歩道・広場空間の魅力向上の取組内容といたしましては、①としてにぎわい広場や駅西公園等の有効活用、②として沿道店舗等の歩道の利活用としております。次に、施策 1－2：歩いて楽しい歩道ネットワークの構築の取組内容としましては、①としてサインや案内誘導等の設置により、歩きたくなる空間を創出、②として小牧駅から小牧山までつながりのある景観づくりの推進、③として小牧駅から小牧山を結ぶ拠点としての図書館跡地の利活用の検討としております。次に、施策 1－3：歴史・文化資源の活用の取組内容としましては、①としてれきしるこまきを活用した歴史・文化の情報発信の強化、②として中心市街地の歴史・文化資源とふれ合える機会の充実としております。

25 ページをお願いいたします。

住みたいまちの施策 2－1：まちなか居住（高度利用）の推進の取組内容といたしましては、①として良好な住環境の形成の促進としております。次に、2－2：緑とやすらぎのあるまちの創造の取組内容といたしましては、①として市民が集い、憩うことができる空間の整備、②として公園・緑地等の適切な維持管理、③として民地緑化の推進としております。次に、施策 2－3：地域で支え合うまちの創出の取組内容といたしましては、①として「ワクティブこまき」を拠点として市民活動や地域貢献活動の活性化、②として子育て支援や多世代の生きがいくくり支援の充実、③として外国の文化とふれあう機会の充実としております。

27 ページをお願いいたします。

続いて、活力あるまちの施策 3－1：リノベーションまちづくりの推進の取組内容といたしましては、①として空き店舗の利活用の促進、②として空き家の適正管理や利活用の促進、③として空き地の有効活用の検討としております。次に、施策 3－2：多様な人が主役となりにぎわいを生み出す環境の創出の取組内容といたしましては、①として多様なイベント開催を促進、②として特色ある店舗の立地誘導としております。次に、施策 3－3：利便性の高い公共交通ネットワークの充実の取組内容といたしましては、①として公共交通によるアクセスがしやすいまちなかを目指す、②として公共交通の利便性向上のための交通結節点機能の強化としております。

それぞれの取組内容の下には、想定される取組として幾つか具体例を記載しております。既に今後実施が予定されているものには「実施予定」、実施されている事業には「実施中」と記載してあり、実施中の事業については、内容の充実や見直し等も含め検討していければと考えているところであります。記載がないものについては、他市の事例等を参考に、今後取組を検討していくこととしております。

以上で第 3 章の説明となります。

続きまして、29 ページをお願いいたします。

こちらは、第 4 章として、計画の実現に向けた方針を記載しております。計画の推進のためには、地元住民・地元商店のまちづくりへの参画、民間活力を活かしたまちづくりの推進、まちづくり活動の担い手の育成、情報発信体制の強化が重要であることをまとめております。

30 ページをお願いいたします。

こちらには計画の推進体制を記載しておりまして、それぞれの活動主体の役割を明確にし、連携・協働して課題を解決するための体制・環境を整え、PDCA サイクルに基づく計画の進行管理と事業の改善を行っていきます。また、指標の設定につきましても、現在事務局にて調査検討しているところではありますが、こちらにつきましても、御意見などがございましたら御発言を頂きたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、グランドデザイン素案の説明とさせていただきます。

御議論のほどよろしく願いいたします。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございました。

皆さんから御意見を頂きたいと思いますが、先ほどのワークショップのところで御発言頂いた内容で、関連するところだけ少し先に確認をさせていただきたいと思います。

例えば空き店舗の活用で、特色ある店舗や人気店の誘致だけではなくというところで、先ほど犬飼委員が御発言された内容が関連するのが、27 ページのところで空き店舗の利活用という話があったりとか、28 ページでも公共空間を活用した飲食店、これは空き店舗とは限らないですね。特に27 ページのところで出てくるわけですが、ここの想定される取組の書き方ではなく、先ほどの犬飼委員の発言からすると何か表現や内容を付け加えたほうが良いというところがあればお願いします。

#### 【犬飼委員】

歴史とか文化とかそういった施策を打っていくとき、民芸品などを提供してもらって、空き店舗を利用して路地とかそういうところに小さい民芸館、あの間の道の中にそれを挟み込んでというお話を前回したと思うのですが。

あの道をよく見てもらうと、現代から江戸時代、上街道のあたりで江戸時代になって、小牧山で戦国というように時代をうまくさかのぼっているんです。だから、その間を現代から例えば昭和の民芸とか電化製品を置いた小さい店舗クラスのものがあるとおもしろい。ちょっとラムネぐらい置いているとかね。そういう使い方が出来ないかなというので出したつもりでした。要するに、タイムトンネルの間に、その抜けている時代の民芸品とかを少しずつ展示して行って、歩いて退屈しない道路っていうのかな、そういうのはどうかなというのを提案してみました。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございます。

そういうイメージ、こんな使われ方がされるといいよねっていうような提案を犬飼委員はされたというところで、ここはそういうことを実際に実施するために行政としてどういうバックアップができるかというところで、貸主と借主のマッチングの仕組みを作ったり、実際に空き店舗を使ってそういう民芸品を扱うようなところを作ろうとすれば、それに対する補助制度を設けたりっていうような、そんなことをやっていこうということなんですね。

こういうイメージで沿道が使われていくことを考えてもいいのではないかということをごどこかで書き込んだほうが良いというところでしょうか。

【犬飼委員】

そう思います。

【大塚委員長】

それはどこかで反映させることはできそうでしょうか。

【犬飼委員】

空き店舗の使い方の一つとして考えられるっていうことでいいと思います。

それで、その後、具体的にどうなのかを行政のほうで考えてもらおうとか。

【日比野委員】

フォローしていいですか。

例えば 27 ページの貸主と借主のマッチングの仕組みづくり。こういう具体的なもので紹介して応募してもらおうとか、ある程度具体的なものを盛り込んでいったらどうかなという意味じゃないですか。実現すればいいものになると思いますし。

【大塚委員長】

空き店舗の活用のされ方として、こんな活用されるのがいいというのが何かわかるように書いてあるといいということでしょうか。

【犬飼委員】

イメージ的にどうしても飲食にいくのではないか。だから、そうではないというのがわかるようにしておいたほうが考えやすいと思います。

【大塚委員長】

3 のところのイントロの部分の、黄色い施策 3－1 と書かれている上に 3 行ほど書かれているので、そこに具体的な活用のイメージを書き加えていただいたらいいかなと思いますが事務局どうですか。

【事務局】

委員長からお話ありましたけれども、空き店舗の利活用ということで、その利活用っていうのはどうしても飲食店とか商業的な店舗っていうイメージがあるところですので、今委員から御指摘ありました使い方の想定ですね、民芸館だとかそういったことにも使えるんじゃないかというところで、幅広く利活用という意味合いがわかるように、今後検討していきたいと考えます。

【大塚委員長】

それと、先ほどのランニングコースやサイクリングコースの話で、ランニングコースについては、小牧山に関しては 25 ページの史跡小牧山の整備の中でそうした、ランニングも想定したような整備を入れていいのかどうかという検討もあると思いますが。

あるいは、自転車のほうについては、一番最後、28 ページにシェアサイクルの導入ということで、

まちなかの移動を自転車で、というのがありますので、単なる自転車を共同で所有するというか、シェアサイクル、貸出しするということに合わせて、自転車が走れる道ということもやはり意識しないとイケない。これはなかなか簡単にはいかない話だと思いますが、これはどこまで書けるかっていうところもありますが、書ける範囲で検討頂ければと思います。

さらに、水辺のランニングコースという話もありましたが、このランニングコースとかサイクリングコースといったことについてどんな感じでこの素案の中に反映できそうか、今のところ何かありますか。

#### 【犬飼委員】

基本は、とにかく緑と木陰が人が集まる基本じゃないかと。水辺があるともっといいねと思いますが、実際水辺は難しいですね。だから、ついでに言ってしまいましたが、その辺は抜いてもらってもいいと思います。緑と木陰が基本じゃないかという提案でいいです。

#### 【大塚委員長】

水辺はまた、日比野委員がおっしゃった川沿いでというところで、そこで実際できるできないというのもありますので、その辺りを踏まえて、どんな感じで盛り込めるのか、盛り込めないのかも含めて、事務局で再度検討していただければと思います。

#### 【日比野委員】

22 ページの図では、小牧山を含めた歴史ゾーンがあり、合瀬川の一部が入っています。もちろん、あれもこれもなくてはいけないということではなく、あっても良いのではないかなと思ってのことです。小牧山～歴史ゾーン～市街化ゾーンは、東西の意識で良いのですが、小牧山と歴史ゾーンの間、南北には合瀬川があり、翁橋、御幸橋、山北橋の3つの橋が架かっています。翁橋から南の中学校方向の西側堤防は、散策できる歩道が整備されています。他方、山北橋から北への西側堤防にも歩道兼自転車道が整備されています。さらに北の小牧山橋までの間は年代物の桜並木があり、見事な市民の憩いの道です。しかし、この間の東側は歩道、車道が一緒になっていてやや危険であり、景観もよろしくない。山北橋から北への東側堤防は、原川との合流部を迂回すれば散策は可能です。3つの橋を利用するような工夫があれば、さらに魅力ある小牧山になると思います。ただ、10月から半年程度水量が極端に減少するのが難点です。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございます。

物理的に可能なものとそうじゃないものがありますので、その辺りを整理していただいて、書き込めることがあれば書き込んでいただいてというところで、改訂をしていただければと思います。

もう1つ、生田委員がおっしゃられた防災拠点の話ですね。住みやすい、住みたいまちの中に多分入ってくるかと思いますが、この中にやはり人が住むという都市機能や生活利便性の高い施設、そういう中にはやはり防災というのは重要ではないかという御指摘だったと思いますが、生田委員、この中にそうした防災に関する記述を入れたほうが良いのではないかという御意見でよろしかったですか。

【生田委員】

指摘が出ているということを考えると、現状の方法で十分ではないという1つの意見かと思うので、そういうことについて見直すような項目立てはあったほうがいいのかなと思いますし、随時その点についても更新されるべきかなと思います。

【大塚委員長】

ということですが、この中に防災という観点を追加されるということに対しては、事務局どうですか。

【事務局】

住みたいまちという中では、安心・安全なまちづくりは本市でも進めているところでございます。住みたいという中に、防災の観点からも内容を検討して、何か記載できるものがあれば検討してまいりたいと考えます。

【大塚委員長】

よろしくお願いします。

【副島委員】

防災拠点っていうのは幾つかのレベルがあるんですね。本当に近所で何かあったときについていうのもあるし、もうちょっと大きい災害があったときにどうなるかっていうようなことがあって。

実は、小牧山の周りの整備をしたときに、表向きは、歴史のかつての遺構を整備してっていうのがあるんだけど、実は隠れていた裏側がありまして。阪神・淡路大震災などのときにいろんなこと、物資を急に運んだりしなきゃいけない、それから大量の人を動員しなきゃいけないというときにヘリポートとかにあそこは活用できるよねっていうのが裏にあって、あの整備が進んだんです。お金も出たんですよ。

だから、防災っていうのを、市全体で考えると、これは例えばほかの市の人からものすごくうらやましがられたんです。市役所の近くの市の中心にあれだけの空き地がある、何かあったときにはそういう活用も当然できるだろうって、そういうのは本当にうらやましいなってずっと言われたんです。

だから、もし書くなら、書けないかもしれないけど、これはね。でも、いざとなれば小牧山がそういう拠点として使えますよっていうことは考えておいてもいいんじゃないかなという気はするんですね。県営小牧空港があるじゃないかって言うんだけど、大災害が起きたときにはそれだけでは輸送などはうまくいかないと思います。だから、そういう意味でいうと、小牧市民にとってはすごく意味のある場所なんだなということは防災に関しては思っています。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

防災については、市全体の計画があると思いますので、それとの整合性という中で、この中心部でどういうことができるのかというところで、盛り込んでいただくことができるものを盛り込んでいただければと思いますので、そうした点で御検討いただければと思います。

【犬飼委員】

最後に1ついいですか。

訪れたいまちの施策1－3の、れきしるこまき等を活用し、歴史・文化の情報発信を強化しますというところがあります。僕もそういうふうについてワークショップで出していたんですけど、その後いろいろ話を聞くと、れきしるこまきは小牧山に特化したことをやっていますと言われたんです。小牧全体のそういったことをやりますというのは、今のところないというイメージで言われたんです。ですので、そういうことをできるようにしていくことを考えなきゃいけないっていうふうに変えなきゃいけないかなって思っています。

何回か小牧山課と話をすることがあって、その中で、れきしるこまきっていうのは小牧山に特化したことをやるために作ったので、現状はそういう機能はないというイメージなんです。だから、ここは僕らもあの施設に期待し過ぎたなってイメージがあります。だから、そういうところが欲しい、必要でしょということです。

【大塚委員長】

関連してということによろしいですか。

【副島委員】

直接関わったわけではないのですが、史跡の中で施設を造るときに、そういう名目を出さないと許可が出ないんです。ですから、小牧山を説明するための施設だという形で造ってもらったんです。だけど、実際何かやるときに小牧山と絡めてやるのは僕は一向関係ないと思う、全然問題ないと思う。むしろそういうことをやらないと、作ったけど誰も来ていないという話になっちゃうのかなと思って。造ったときの許可の申請のところで、人がいっぱい集まってこういう拠点になるような活用をしているというのは、全然矛盾はないと私は思っています。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

事務局、お願いします。

【事務局】

れきしるこまきに関しての御意見ですが、一応各課調整というか、この計画案についても事前に所管課にも見ていただいております。その中で、特に意見等はここの部分に関しては頂いていない部分ですので、一応やっていけるかなと思っています。ただ、委員の方も担当のところに言ってそういう形だよということもありますので、再度、事務局側としても調整を取りながら進めていきたいと思っております。

以上です。

【大塚委員長】

テーマを設定した企画展等という話もあるので、明らかに小牧山のことが中心になるとは思いますが、それで人が集まってきて、それを見ることによって周りにそれに関連するものがあるんだと

いうところで、実際、れきしるこまきを訪れた人がまちの中に繰り出して散策するというような役割はあると思います。だから、そういうイメージというか、そういうのがわかるような表現ができるのであれば、そうした方向で御検討頂ければと思います。

鶴田委員に御確認をさせていただきたいのですが、前回の意見の中で、人に関わる部分がとても多いというところで、例えば今3本柱になっているけれども、4本目を立ててはどうかということがあったかと思います。今回の案では、4章の計画の推進・実現に向けての中でというところで原案が作られていますが、そのあたりに対する御意見、あるいはそのほかも含めて頂ければと思います。

#### 【鶴田委員】

まず、この施策、今ちょうどお話ししている中で気になるのが1点あるので、そちらからお話したいと思います。

施策2の住みたいまち、先ほど防災のお話もあったと思うんですけど、これはやっぱり安心して住み続けられるという意味では非常に重要な視点だなと思っています。そういうふうに見ると、25ページの施策2-1：まちなか居住と書いてあるところ、またここも良好な住環境の形成を促進しますって、ほかに比べて非常に抽象的な表現になっていて、しかも、ここに書かれている内容が、ワークショップの結果のところに、子供が安心して遊べる空間整備、子育て世代とか、高齢者が生き生きと暮らし続けられるとか、加えれば防災とかね、そういうことがあまりイメージされないようなものになっているように見えます。ほかに比べると具体性もなく、施策も少ないって思うのですが、でもこれ、住みたいまちのベースになる部分だと思うんです。これはこのままいくのかまずそちらからお願いしたいと思います。

#### 【大塚委員長】

まちなか居住ということで、どういう人たちに住んでもらおうとするのか、それはワークショップでも若い人たちにという意見が出てきたりしているわけですが、そのためにやるべきことが良好な住環境の形成だけでいいのかということだと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。事務局お願いします。

#### 【事務局】

まちなか居住と言ってしまうと全体的な話になってきますが、今ここでうたっているのは住んでもらうスペースというか、今中心市街地は、長屋形態が多い部分でもあるわけですが、そういったところも高度利用することによってたくさんの人が住めるような環境づくりという形で、こちらを記載させていただいております。

また、子育て世代のサポートというのは、施策2-2の小規模公園の整備といったところで記載させてもらっています。

また、施策2-3で、子育て支援や生きがいづくり支援といったことについて書かせていただいております。2-1の施策が少しハード的というか、マンション等も含めた形にしています。突然人口が増えるかということ、限られたキャパシティの中でということですので、そういったものを増やしていくという形で記載しています。



【大塚委員長】

いかがでしょうか。

【鶴田委員】

今のお話で、ここに書きたい内容は、後から出てくるいろんな施策のベースとなる土地というか、空間を生み出すためのハード整備をすると受け取りました。であれば、そういうふうここに書いたらよろしいんじゃないでしょうか。そういう空間を生み出して緑を育てて、緑の施策のほうでそこに整備していくとか。

良好な住環境っていうのをどういうふうに捉えていらっしゃってて、その良好な住環境を実現するためには、例えば防災だったりとか広い空間であったりとか、あるいはたくさんの人が住めるような住宅であるとか、いろいろ要素があると思うんですけど、それが伝わってこないの、良好な住環境っていうのはこれとこれとこれは必要だよっていう、それぞれに対してこういう施策を打ちますっていうことが必要だと思います。今おっしゃったように子供が安心して遊べる空間とかは後ろのほうにありますって、その土地をここで生み出すっていうことをおっしゃっていると思うので、であればここにはそれを書かないとわからないんじゃないですか。

【事務局】

住環境というこの表現の仕方は、かなり幅広い形で捉えられるような状況ですので、後ろに書いてあることも含めて、表現方法も含めまして少し検討していきたいと考えます。

【大塚委員長】

そうですね。今は、住環境というのは住宅宅地というところに限ってというところですが、であれば、ここはその部分だけだけれども、ほかの部分にも関わっていくというような、イントロの部分としてももう少し表現を工夫いただければなと思います。

【水野委員】

ここで、高度利用を促進するためのという言葉が入っているんですけど、高度利用っていうのは、例えば容積率の緩和とか、建ぺい率の緩和とか、最高限度を決めるとか、そんなようなことだろうと思うんですけど、ここで言っているのは高度利用イコールマンションを増やしましょうということなんじゃないでしょうか。

【大塚委員長】

そのあたりはいかがでしょうか。

【事務局】

高度利用ということになると、当然マンション等が考えられると思います。そこで、今委員がおっしゃったような容積率とか、整備の足かせになってくるようなものをいろいろ工夫しながら、どういう方法があるかということは今後考えていきたいなということでこういった表現にさせていただいております。

### 【水野委員】

高層マンションが林立するのと良好な住環境の形成という、取組内容、この辺の考え方を納得できるところかどうか、その辺もよく考えないといけないと思います。

### 【大塚委員長】

そういう意味では、いきなり取組内容として具体的な取組、想定される取組が書かれているので、その意義とかその前段の部分で、そうした今のような考え方を書いていただくということで。ここに書くべきなのか、前の取組方針の中で書くべきなのかっていうのも含めて御検討頂ければと思います。

関連ですか。お願いします。

### 【伴野委員】

コンパクトシティということで、郊外へ出た人たちを市街地へ取り戻そうというのが1つですね。そうすると、どうしても高さしかないんですよ。その高さと平面の緑をどこまで調和させたものにするかという議論はしなきゃいけないと思うんです。

それと、マンションに関していえば、マンションの住人というのは、私の経験からいうと、あくまでもサービスを当然受けるべきだという人たちが多くて、自分がサービスする側に向かう人たちじゃないんですよ。だから、いくら人が増えたとしても、この地域で支え合う、これはあり得ないのではないかと。

例えば、まちの中のマンション1軒、これは区の自治会の担い手がないということで、役員をやってくれということでマンションの管理組合へ持っていったら、そんなことやりたくないマンションごそつと全部脱会してしまった。

それから、自分が住んでいる地区でも、マンションが出来たときに、半分はもうそんなのやりたくない。そのマンションを見てみると、利便性があるからと桃花台とか郊外から戻ってきた人たちが多く。そういう人たちはそんなことやりたくない。自分たちがサービスを享受できればいいという人たちがほとんどであるということを考えて、そういう人たちをどうするかというところをどこかに入れてほしいですね。

一番いいのは、我々でいうと子供会を使う。子供会というのは、いわゆる学校ですよ。コミュニティスクールということで全国展開しているので、コミュニティスクールとの関わり合いをどういうふうにやっていくか、いかに子どもたち、学校を取り込むかということが大事じゃないかなと思います。

防災も一緒なんですね。防災の拠点という場合に、先ほど小牧山の件がありましたけど、小牧山はいいですよ。中心市街地でいうと小牧小学校なんですね、防災拠点は。小牧小学校が防災拠点になるということは皆さん知ってみえるんですけど、今回も防災ガイドブックが皆さんのところに回っているんですが読まないんです。読まない人をどうするか。そういうのも人材育成とかそういう中の、中心市街地グランドデザイン策定委員会の中の1つの議論としてどこかに入れておかないとまずかろうと思うんですよ。

相反的な議論がいっぱい出てくるんですよ、ああしたほうがいい、こうしたほうがいい。でも、実際の担い手は、ほとんど動いてくれない人を頭に入れてかからないと無理ですよ。そんなことを思いました。

だから、最初に言ったように、人を呼び入れようとしたら高さしかないんですけど、高さを求めれば、地域の支え合うというところが今度は逆に下がっていくという、その辺のところをよく考えないとうまくいかないんじゃないかなと私は思います。その辺のところをどう考えられているのかなと思いました。

#### 【大塚委員長】

大変重要な指摘で、同じような問題があちこちで起きていて。子どもが学校に通うという時期で、それで地域に溶け込んでも、子どもが学校を卒業したらまた一気に離れていくということも起きているようですが、その辺り事務局の意見を聞きたいということでもよろしいですか。

それに対してどうでしょうか。

#### 【事務局】

どういった形で解決していくっていうのはなかなか難しい問題でもありますし、今起きている事象なんかも、やはり調査研究もさらに必要だなというところは感じます。なので、そういったところも含めて、表現方法も含めまして、どういった形が最善かということを詰めていきたいと思います。

#### 【大塚委員長】

都心居住ということで、マンションというものを建設して人を呼び込む。それによって起こる問題も当然あったりするので、それもわかっていることなので、それを何とか対応するための方策も併せて考えて提案していかないといけないのかなということなんだろうが、その方策は実際にあるのかどうかっていうのは難しいですが、どうですか。

#### 【廣瀬委員】

アイデアではないですが。

いろいろ皆さんから、すごいな、そういう視点だなと思って聞かせていただいていたんですけど、緑のところは、緑って簡単に育つっていうものではないので、すごく時間がかかる、緑をつて簡単に言えますが、それを緑が詳しい人にやらせるばっかりでいいのかなとかって思ったりもしました。

他方、マンションというところも、まさに住むっていうか、そこに定住する目的で来ているとなると、その住環境を享受しようと思って来ているということだと、その担い手を来たからやってねみたいなのはやっぱり話が違ってくるのかなと。住みに来たという当事者目線で考えると、担わせる役をくつつけるのは難しいところがあるのかなと思います。

あと、木というところの話から、やっぱり時間をかけてということが必要だと思っていて。

担い手の部分なんかは、中心市街地に該当する学校なんかは小牧小が中心になってくるのかなと思うと、子どもさんにできれば担い手として今後育成されていってほしい、育ってほしいと思うと、その巻き込まれ感がポジティブなものであれば、親御さんもそれいいねっていうふうになっていくのかなと思います。育てていかれる主体がお母さんお父さんだったりすると、実際に育てていく上でとてもポジティブなことだねと思えなければまちづくりの担い手として参画しようかなという気持ちにならないと思います。

例えば子供会なんかだと、今もうやりたくてやっているではなくて、お金があるので、事業、こういう計画があるので、すみませんけどやってくださいって、どこかやらされている感があります。私もすごくやらされてっていうところがあるんですね。ボランティアでやりがいを持ってっていう人がどれだけいるだろうかと本当に思います。

何が言いたいかというと、お子さんにポジティブに関わっていかなきゃというコンテンツっていうのはやっぱり必要だと思っています。

例えば緑化とか今ありますよね。緑化っていうのを始めて、ここから例えば小学校1年生だったら7歳、6年間かけてやっていくとか。中高生なんかにも関わっていただいて、学生時代に何回か、緑化に関わったりとかまちづくりに関わるということを学校教育の中のどこかに組み込まれていると、自然にそれが、そのとき学ぶ時間というふうで認識して、私も何年生のときにやったよとかいう話になったりするのかなと思うと、継続的に学校の中で、SDGs教育の一環でもいいかもしれませんけれども、自然に体感で学んでいくことが、継続的に例えば緑づくりだったりまちづくりだったりとかいうふうに、担い手づくりという目線でそういうのを育てていくといいかなと思ったりしました。

マンションという話も出ていましたけれども、住んでほしいという定住という意味でのマンションなのかもしれないと思ったんですが、先ほどの御意見で、民芸品とかそういうのも展示する場所があったほうがいいよというお話を聞いていて、古い小牧のまち並みなどを再現するような場所があるのでしょうか。東京には、江戸東京博物館という昔のまち並みを再現した建物があったりするそうなんですけど、それを次世代に知ってもらいたい、昔の暮らしってこうだったんだ、と思えるもの。れきしるこまきでは難しそうな感じがしましたので、そういったものが中心市街地に全て集約できると次世代に、世代を順送りに、中高生がそういうのを教えていたりとか、ちょっと高齢世代の方が昔の暮らしはねっていうような、そういう体験型のまちづくりが望まれるのかなというふうに。すごくざっくりした意見になりましたけれども。

あと、商店街の空き店舗を使って、商店街ホテルという構想もできたりするんじゃないかなと思うんです。決して新しいものを建てるとかではなくて、古いもの、あるものを使って、来ていただける、おもしろそうだなあそのまちっていうふうに、来てくださった方にもまちの活性化の担い手になっていただけるといいなと思ったりして。

まとまりがありませんが、言いたかったことを言わせていただきました。

以上です。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございます。

まちづくり活動の担い手の育成ということについては、29 ページに第4章で書かれているので、このあたりで今御発言頂いたような内容を、もう少し肉づけが可能かなという感じを受けてお聞きしておりました。

鶴田委員が退席されないといけないう時間が近づいておりますので、先ほどの発言の続きがまだありだと思いますので、お願いできますでしょうか。

#### 【鶴田委員】

すみません、途中で抜けてしまって申し訳ないです。

今の議論を聞いていて1つ思ったのは、2-1の「まちなか居住（高度利用）の推進」となっている、この「(高度利用)」は取ったほうがいいと思いました。高度利用はもちろんされるんですけども、そうじゃないまちなか居住の姿もあるかもしれないです。これを書くと、高度利用が目的みたいになってしまう。もちろん、中に書くのは構わないと思うんですけど、見出しって結構大きいので、この括弧は取ったほうがいいんじゃないかなという、私の意見です。

担い手については、前回のときもお話しさせていただいたんですけども、これは地域の方がたくさんいらっしゃるのでもその方々の意見を尊重したいなと思うんですけども、地元住民、地元商店っていうのは、今回はこれ、結構エリアを絞っているからこういう書き方になるんですけど、一般的には市民とか住民とかいう言葉を使う、地元っていう言葉はあまり使わないような気がします。

さらに、まちづくり活動の担い手の育成っていうのが別になっていますよね。今のお話ですと、地元の中でも当然担い手を継続して、子どもだったりとかに伝えていくっていうのがあると思うんですけど、これだと別になっているように見えてしまう。

それをもっと強調しているのが、後ろの30ページの図なんですけど、まちづくりの活動の担い手っていうのは、地元住民や地元商店街っていうか、地域でも担い手を育てていくはずなのに、何か矢印が変なところにあるように私には見えます。担い手っていうのは、地元の中でも、小学生のコミュニティスクールであったりとか、あるいはSDGsの活動だったりとか、そういう中でつながっていくと思うので。これを見ると図も含めてあまり伝わらないなという印象です。

#### 【大塚委員長】

その図は、具体的に、今御指摘いただいたのはどの部分になりますか。

#### 【鶴田委員】

民間事業者と地元住民、地元商店、行政、3者になっているのはいいんですけど、例えば地元って限定しているから、これはもう市民は関係ないんですねというふうに見えます。それでいいならそれでよろしいですけども。それと、まちづくりの活動の担い手の育成って、この地元住民とか商店のピンクのところ、ここの中で行われていくものじゃないのかなと思います。

もっと言うと、情報発信体制、基本情報発信があって、その上にいろんな地域活動があって、さらにその中にまちづくりの担い手の活動があるっていう仕組みだと思うんですけど、この図からはその流れがちょっと読み取れないのではないですか。

#### 【大塚委員長】

そうすると、ピンクの地元住民、地元商店っていうのは、これは「地元」は要らないということでしょうか。

#### 【鶴田委員】

地元が要るか要らないかは、今もたくさん地元の方がいらっしゃるのでも、自分たち中心でやるからこれがいいというのもあるかもしれないし、中心市街地は小牧市の中心なんだから、市民の方もいろんな意見を言ってほしいということであれば、こうやって書いてしまうと、市民の方に配っても、これは地元か、私たちは違うなって思ってしまうのかなと。それでよろしいですかという確認です。

【大塚委員長】

中心市街地のまちづくりの担い手になるのが、地元の人たちが中心になってやっていかれるんだろうけれども、かといって、地元じゃない周辺の市民の人たちも一緒になってやっていくということを表したほうがいいのか。そのあたりはどうでしょうかと、皆さんの御意見はいかがでしょうかという問いかけだと思いますが、その辺りについてはいかがでしょうか。

【廣瀬委員】

私も、この地元っていう表記しちゃうのはすごくクローズドなイメージというか、ここの中だけで話し合ってた、手伝ってほしいときだけ、外の人よろしくねというような印象になっちゃう感じがするんです。

私も、小牧市中心市街地グランドデザインと言っているから、小牧市の市民の皆さんがそれぞれ主体的にこのまちをどう考えるのという意味合いでこれを見ていただきたいと思います。この中で場所として小牧市中心市街地という地理的な部分のところに小学校とか防災とかいう目線があったりするんですけど、そこに例えばモデル事業などをすると、そこに住んでるから一回実験的に、実証的に関わっていただいて、これがよさそうだなと思ったら、各地区だったり小学校とかの輪番でプロジェクトに関わっていただくとか、長い目線での部分はできると思うんですね。そこに住んでいて一番近いところにいるから、参画することにそんなにコストがかからないという意味で地元という意味合いで使うのはありかもしれませんけど、この計画は地元だけの話で進めていきました、あと、ここまで決めたのでそれを皆さん知ってくださいねという感じなのは、当事者感っていうのが薄れやすいのかなと思いました。また今後うちの地区でもという参考にしたい事例があったら、各地域協議会とか地域の代表の方とかにこういう場の中に入っていただいたりしながらというのは必要になってくるのかなと。決して小牧市中心市街地の地理的なところに住んでいる方だけの問題じゃないというふうに私は認識しています。

以上です。

【大塚委員長】

私もそう思っていて、中心市街地の活性化は中心市街地だけの問題じゃなくて、小牧全体の問題なんですよ。中心市街地を活性化しようと思うと、それに対して周辺の人たち、小牧市全体の市民の皆さんがそれに対して賛同し、小牧市にとってこの中心市街地はこういう意味を持っているから大切なんだ、自分たちにとってもやっぱりなくてはならないもので、何とかしていけないといけないという、市民全体がそう思ってくれないと、中心市街地だけで幾ら頑張ってもどうにもならないと思います。そういう意味では、特に地元というふうに限定しないほうがいいのではないかなと私も思いますので、その辺り御検討頂ければと思います。

【犬飼委員】

訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちというのが大きい柱ですよ。僕、最初からどうもよくわからなかったのが、住みたいまち。

訪れたいっていうのは、言ってみたら来訪者ですよ。来ていただく、来てもらう。それに住民がどう関わるか。活力も同じような感じなんだけど、住みたいまちっていうと、これ本当いうと小

牧全体でやらないといけないことですよね。それが中心市街地だけに限ってやってどういうふうに生かされるんだろうと、何となく不思議です。どうやったらできるんだろうと思っていたんです。今それを言われてみると、やっぱり皆さん同じように感じるのかな。ここだけちょっとテーマの中身が違うような気がします。

#### 【秦野委員】

関連です。私も実は同じような考え方を持っています。

ワークショップを始めたとき、テーマ的にはこの3つでいいのかなと。その中でも、このテーマの中で結構近いような課題が2つにまたがっていたりするわけですよね、利便性の高いみたいなものが住みたいまちにもあるし、活力があるまちにもある。だから、もう一度細かい出てきた内容を再構築されたほうがいいのではないのかなと思ったのが1つ。

もう1つ、将来像が、小牧山や中心市街地としての魅力を生かし歩いて楽しめる活気あるまちっていうのが21ページに書いてありますけれども、何が言いたいのか、伝わるのかなというところがちょっと疑問に思っています。例えば、小牧山だとか中心市街地って何があるかといったら、やっぱり歴史だとか文化だと思うんです。例えば、歴史・文化あふれるまちの魅力を生かした、訪れたい、住みたい、活力あるまちみたいな形のテーマであれば何となく伝わるんじゃないか。小牧山と中心市街地をこの会議でやっているっていうのは初めからわかっていることなので、そこにどういうふうにまちの特色を出すのか、重ねるのかっていうことが、やっぱりまち全体で共有できることが最大のこのやっている価値になるのかなと。

私、実は東部まちづくりのほうの会議にも出ていますけれども、やっぱりいろんなことが出てきて、まちの特色がぼけてしまうんですね。だったら、自然だとか農業だとかいったところに絞って打ち出していく。その中に生活基盤も関わっているよということで。例えば歴史・文化というものを将来像に用いながら、その中で景観、活力あるまち、生活基盤、防災、また教育も含めた、そういった再構築をしたほうがわかりやすいし、進めやすいんじゃないのかなと、そんな気がしました。意見として。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございます。

大変重要な御指摘だと思います。19ページにまちの将来ということで、将来像、今のキャッチフレーズが掲げられていますが、このお話と目指す姿の住みたい、訪れたい、活力がある、ここへのつながりがちょっと弱いのかなということかと思います。

そして、小牧山や中心市街地としての魅力とは一体何かというのを具体的にぼんと打ち出したほうがわかりやすいのではないかと。それに沿ってこの3本柱を走らせていくという、そういう再整理が必要ではないかということですが、そのときの3本柱として、住みたいまちというのがちょっと違和感があるという部分が犬飼委員の御意見だったと思います。

基本的に、訪れるまち、そして活力があるまちで、まちというのは本当にそれだけで十分なのか、そこに人が住まなければまちは維持されていけないということからすると、やはり人が住むまちにシなくてはいけないというのが、柱として設けた理由ではないのかなと個人的には思っております。

まちの将来像自体をもう一度見直してみるということに対しては、事務局はいかがでしょうか。

【秦野委員】

もう1点いいですか。

このまちの将来像の中にあともう1つ、歩いて楽しめるっていう言葉が出てくるんですよね。これはやっぱり景観のことが中心になっているような感じがするので、こういうふうに言い切ってしまったら、安心・安全の暮らしみたいなのがこの将来像の短く短縮された言葉の中では漏れてしまうようなことを感じました。

【大塚委員長】

歩いて楽しめるまちだったら、結構安心・安全じゃないかとも思えたりもするのですが。

【秦野委員】

そういう解釈もありますね。

【生田委員】

恐らく指摘されているのは、将来像としての言葉っていうと、小さい項目立てが強いものとして伝わってこないということだったのかなと思います。私は、この計画が非常におもしろいアイデアやいいアイデアを取り入れ、大多数の項目でかなり深まってきていると思う一方で、どこから着手されて、どのように実行されるかということが全く示されていないのが残念で、もう一度考えていただければなと思うところです。

計画そのものの策定期間が、20年を見越して10年であるということも、これを発した後10年間何もしないで放置で各部署に任せるというのでは、推進が見守れないような気がしまして。今後市の中で考えていただければと思うのですが、例えば、一年に一度は何らか、ここまで進捗しましたよという報告があつてそれを聞く機会があるとか、せめて5年ぐらいの間では一度微調整をするとか。今後10年に対してどのようにこれを実施していくのかと、PDCAサイクルをどうやって回すのかというところを、スケジュール感でもう少し示せるといいんじゃないかなと思うところがあります。

あとは、並んでいる項目の中でも、既に実施中というものもあつたりとか、実施予定というものがあつたりとかって、今すぐできるアクションプランと、結構時間をかけないとできないものがありそうです。当然優先順位の付け方とか、実際できるできないというのがあるかと思うのですが、ある程度わかるところまでは優先順位をつけて、いつ頃までにはやりますよということが示されたりとか。あるいは、まず第一歩で、最優先でこれをやるとか、何かグランドデザインが動き出したなという目印となるような魅力的な、それこそ3本くらいの近々に目標とするプランが示されたりすると、これがいよいよ動き出すんだなという躍動感も感じられますし、この後こういうふうに変わっていくんだなということもわかるんじゃないかなと思います。4章の計画の推進体制というところをもっと深掘られなければならないんじゃないかなと感じました。その中で、何がグランドデザインの目標なのかっていうのが少し見えやすくなるのかなと思いました。

先ほどの住まいの議論のところがずっと続いていて、私も、住まいの議論のところっていうのはまだこの委員会の中であまり深く話し合われていないというか、議論がまだ活発化していない状態で、先立って歴史・文化とか歩道・広場空間というあたりはかなり議論が進んできているという印象を受けていまして、やはりこのまちなか居住すごく重要だと思うけれども、単純に高度利用では



ないというのは全くもって共感できることです。

ただ、これに関することに関して、市全体として恐らく居住政策的なものもあるかと思うので、居住政策と、その中で中心市街地として考えなければいけないというような項目出しの、一回整理する回があったほうが、あるいはこのグランドデザインでどこまで踏み込むかということの位置づけも含めて、整理される回はあったほうがいいんじゃないかなという気がしました。

立て続けですみません、もう1つだけ。

先ほど鶴田委員から、人づくりとか担い手とか担い手育てという話もありましたし、廣瀬委員から、子どもたちをどうやってつなげていくのかという話があって、その点が29ページに書かれているものの、やっぱりこの小さな項目の中にも、例えば項目の取組の中でも地元商店街と起業希望者との交流会の実施というような、人づくり、担い手育て的な内容も含まれているので、実際にこの取組内容の想定される取組のところにも少し入ってきているような気もするので、想定される取組のところ、いわゆる仕組みとか制度づくりというものと、担い手育てというような項目と、その双方がここに入ってくるような、それが見えるような組み立てにしてもいいのかなと思いました。

#### 【大塚委員長】

3点ほど御指摘頂いたと思います。最初の話に関しては、個々の取組の想定される取組というのは挙がっているわけですが、その中でもう既に着手しているものもあれば、これから新たに検討して進めていくものもあったりしてということで、その辺りをこの20年間でどういうふうに進めていくのかっていう取組全体の、取り組んでいくスケジュールというか、そういうものが見えるようにしたほうがいいのではないかな。その中で、今やっているところをやっていくだけでは、グランドデザインの計画はできたけれども、新たに何かが始まったぞという感じも受け取れないので、ついにグランドデザインも具体的に動き出したというのがわかるような、キーとなるような事業を位置づけるということも検討できないのかという話でした。

あと2つの話もありましたが、今の生田委員の御発言に対して、事務局から何かコメント頂けることはありますか。

#### 【事務局】

第4章のところの今後の事業の計画の推進体制や方針のところの話を頂いたんですが、当然市民やまちづくりへの参画ですね、民間の活力だとか担い手の育成なども含めた体制づくりっていうのは事務局も重要だと考えておりまして、市民、民間事業者、また行政、そういった連携・協働といった部分も重要でありますので、委員がおっしゃったPDCAサイクルを回していくにも、こういった形でっていう形もございます。

その中で、そちらの絵にも書いてありますようなチェック機関といったまちづくり協議会など、そういったものの設置を今後、検討していきたいという考えで進めていきたいと思います。

#### 【大塚委員長】

取組ごとの、当面こういうのをやっていく、次のステップでこんなことをやっていくという整理をこの4章の中でされるというお考えに対してはどうですか。

#### 【事務局】

どれを重点的に進めていくかというのは当然あると思います。何が重要でどれを先に進めていくか、すぐにとってかかれるものもあると思いますので、実行計画の策定みたいな形で検討していきたいと思います。

#### 【大塚委員長】

見通しをこの中で立てておかないと、作った方がいいけれども、次の年から一体どう具体的に動いていくのかが見えないまま終わってしまうということは避けられないといけないなと思っていますので、そのあたり御検討頂ければと思います。

あと、居住についての話し合いができる時間をまた設けてはというお話がありましたが、これはかなり時間的に厳しいかと。もう次回がパブリックコメント案の最後の確認となります。パブリックコメントから出てきた意見に対して、それをどう反映させるというのが4回目になるというところで、実質今日がそういう意見を言っていただく貴重な回ということで、あと10分ぐらいしかないのですが、まだ御発言頂いていない方もいらっしゃるし、できるだけたくさんの方に御発言頂ければと思いますので、いかがでしょうか。

#### 【副島委員】

ごめんなさい、今日何回も話して申し訳ないですけど。

最初のところで、特色ある店舗を誘致するっていうのは、おかしいだろうって、中からこうやって出ていくのはおかしいのではないかっていう話が出ました。建前で言えばそのとおりなんです。だけど、空き店舗をどうするかということを同じところで議論をやっているんですよね。だから、そんな簡単に魅力ある、集客力のあるようなものができるだろうかっていうことを、現実面としては考えなきゃいけないと思うんですね。

中心市街地のところで、小牧山、それから駅前、特に中央図書館ができてから拠点ができたんですよ。図書館を造っても人なんか来るかって言う人がいたんだけど、とんでもない、いつも人がいっぱいです。だから、2つ拠点ができたんですね。

その間の道路が、シンボルロードっていうのが、小牧の中では唯一ぐらい広い歩道を両側に持っている道路なんです。いろんなことを考える条件がやっとできたんですよね。それまでは、ぽつんぽつんと点だけだったのが、少なくとも点と線はできてきたなと思って、今度はやっぱり中心市街地という面とのところにいかなきゃいけないんだなと私自身は思っているんです。

そのときに、いっぱいいろいろ出てきたけど、小牧の魅力もある意味じゃ私はわかっているつもりですが、でも、それで集客ができるとか、みんなが訪れて楽しんでもくれるっていう、コンスタントに持続できるっていうところまではあまり思っていないんですよ。もっと工夫をしないと難しいだろうなっていうのはあるんですね。そのためにいろんなことを我々もやっている。多分身の丈に合ったようなことを考えながら。人が来てくれなきゃ、いろいろ拠点があっても広がりませんよね、面としては全然広がっていかないわけで、そのためには、特色ある店舗っていうのは僕は重要だと思っているんです。どうやって誘致できるんだって言うかもしれないけど。

例えば、今中央図書館もスタバを入れたんですが、スタバを入れたことの効果は間違いなくありますね。スタバに来るためにあそこへ行くっていう人がいるんですよ。だから、それと同じように、建前はわかるけど、こういうのも考えなくてはいけません。

【犬飼委員】

でも建前を入れておかなきゃいけないでしょっていう。誘致はわかりますけど、それだけだとぼつと行っちゃうから。

【副島委員】

でも誘致といっても簡単じゃないですよ。

【犬飼委員】

でも、こういうところでやったやつに関しては、すぐに誘致と言っていいんだろうかと思うだけです。

【副島委員】

やっぱりある程度人がいないと何もできない。だけど、こういうのができて歩くっていうことの条件ができたなと思っているんです。そうしたら、その次にやれることはこういうのがいいね、だけではなくて、先ほど順番がっていうのがありましたが、じゃあ、人を集めるのにイベントをやるだけで、そのときだけ来る人で大丈夫なのか。やっぱり持続性からいうと必要だと思うんですよね。そういうことです。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

あと5分ぐらいになりました。今日まだ御発言されていない方、せっかくですから。無理にとは申し上げませんが。

【加藤委員】

初めからの問題で、飲食店が少ないってなかなか難しいと思うんですけども、空き店舗でいうと、初めに言われたように、貸したいオーナーがなかなかみえなくて、飲食店に使えるところが本当にないみたいな感じなんです。空いているように見えても貸さない人も結構みえるので、思ったほど空き店舗があるわけじゃないっていうこともあるんですけども。

一つの策としては、市有地を市がある程度用意して中に入ってもらえるような。例えば駒止公園の敷地内とか旧図書館の敷地内なんかにそういったものをやるっていうのも一つの手じゃないかなと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

名和委員、いかがですか。

【名和委員】

先ほど廣瀬委員のおっしゃられた子どもたちに対する教育、これ全く一緒のことを実は考えておったんですね。

物事を始めるには、やはりきっかけっていうのがものすごい大切だと思っています。そして、ま

ちづくりと人づくりっていうのはワンセットだとも考えております。そういうことを考えて、未来ということの一つ基本で考えるのであれば、その未来に我々がつかないでいくための人づくりっていうのもやっぱりやっていかなきゃいけない。そうすると、廣瀬委員がおっしゃったように、子どもたちにも様々なきっかけ、取捨選択は向こうがします。しかしながら、そういう機会、きっかけを教育の場のほうから考えてやっていくことが、また、その中の何割かの子がそれに興味を持って一緒に育っていただければいいな、なんて思っています。

というのは、昨日、実は3人目の孫が生まれまして、そのときに、この子たちの将来どうなっていくんだろうなということを思ったときに、たまたま廣瀬委員が子どもたちへの教育っていうことを言われたので、ぜひそういった子どもたち、未来ある方々にもきっかけを与える、そんなことがあるといいなと思いましたので、一言述べさせていただきます。

#### 【大塚委員長】

ありがとうございました。

4章の中でそういうことが盛り込まれるといいかなと思いました。

あと、申し訳ありません。眞水委員、お願いしてよろしいですか。

#### 【眞水委員】

いろいろ問題というか、誘致だとかっていうことも大変難しいことだと思うんですけども、例えば市民会館のほうで、文化的なセミナーであったり、結構年間通していろんな行事があるんですけども、空き店舗でできるものがあれば、そういったところで何かセミナーを開催したり。大々的なことからではなくて、できることからスタートできないかなっていうのが1つあります。

先ほど、ワークショップのお話の中で、私、中心市街地の中に住んでおりながらあまり参加できていない、知らないほうの人間になるんですけども、例えば周知方法として、中高年の方は紙媒体が有効だと思います。若い方はLINE。ワクチン接種の際にみんなLINE登録をされたと思うんですけども、市役所から毎日のようにいろんな情報が流れてきます。そういったものも活用すると、結構若い方も見られるかなという気がいたします。

あと、意外に高年の方が、やすらぎばかりを求めていらっしゃる方ばかりではないというのが、いろんな方とお話しして感じます。緑あり、水のせせらぎありというのも当然必要なことだと思いますが、オーバー70 ぐらい、オーバー65 ぐらいの方っていうと結構ロックが好きな方だとか。例えば75歳ぐらいの方、私はクイーンが好きなのよって言われる方がいたりだとか、結構世代によって非常に開きがあるように思います。

よくほかの市町村でもされているお寺関係でのミニロックフェスだとか、異業種でありながら多世代も、若い方と年配の方も交流できるようなものが、4つ寺院が近くにあるということでしたら、今年はこの寺院で何かやってみようというような、そういったことも楽しいかなと私は思います。

話がまとまりませんでした。

もう1つ、まちの中に何か、シンボルであったり何かっていうところに、小牧市出身の漆作家の浅井啓介先生であったり、彫刻家の高野先生、結構有名な先生もおみえでいらっしゃるんで、そういった方々の作品も身近に触れて感じ取れる。例えば海外でいうと、バルセロナであると有名な建築家ガウディがいるというのは、やっぱりまちであったり、建物であったり、そういったものが子供を育てるっていうことにも非常に重要なことだと思いますので、そういったものも1つ入れてい

ただきたいです。

以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

本当はもう少し時間を取って、まだまだ皆さん言い足りないところがたくさんあってもっと議論しなければいけないということも御指摘頂いたんですが、時間が来ておりますので、今日の会議はこのあたりだと思います。

皆さんからかなりたくさん意見を頂きました。まちの将来像自体の見直しという御意見も頂きました。それに加えてこの施策の体系のところ、20 ページ、21 ページを見ていると、左のほうが多分、戦略会議で検討されたことがそのままベースとして書かれていて、右のほうが我々が今検討している内容というところかと思います。ちょうど接合する部分の目指す姿とか取組方針、この目指す姿の中の訪れたいまちの中に少しそれぞれ説明が書かれていますが、その書かれている説明と取組方針の内容がかなり重複していて、このあたりも少し統合するなり整理する必要があるかなと思います。この将来像に併せて体系も検討頂ければと思いますので、基本的には皆さんから頂いた意見を取り入れながらそれを修正して、次回の3回目の委員会にお諮りをするというところで、その準備については、私も事務局と相談しながら検討させていただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいでしょうか。

もしそれでよろしければ、この議題の(2)(3)については終わりとしたいと思います。

それでは、続いて(4)その他というところですが、事務局お願ひいたします。

【事務局】

その他についてであります。

本日の会議録であります、事務局で作成次第、委員の皆様には送付させていただきますので、御確認をお願いしたいと思います。その後、市役所内の情報公開コーナー及び市のホームページにて公開させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

また、今後の予定といたしましては、10月18日に都市計画審議会、10月25日には小牧市の都市景観審議会にもこのグランドデザインの案をお示しして御意見を頂きたいと思っております。

また、先ほど委員長からもお話がありましたが、今回の委員の皆様御意見を反映した形で、次回の策定委員会には、パブリックコメントの案としてこのグランドデザインの案を御提示させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

日程につきましては、11月26日午後3時からを予定しております。正式な通知等は改めて送付させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上であります。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

それでは、本日予定しておりました議事はこれで終了ということになります。

それでは、事務局にお戻ししたいと思います。

【事務局】

委員の皆様、本日は、お忙しい中、長時間にわたりまして議論頂きましてありがとうございました。

以上をもちまして第2回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。